

The Correspondence of Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉦山
ニュースレター

鉦山 録



きたきつね
Illustrated by Hiyama T.

Contents

Vol.16

Mar. 2006

特集 4年目を迎えたふおれすと鉦山	
ふおれすと鉦山の2005年	2
オープンから46ヶ月の活動報告	4
進化するコラボレーション	5
リトル・ヴォイス ～リレーエッセイ～	7
お知らせ	8



ふおれすと鉱山の 2005年

今年をふりかえったとき、何が残るだろう。そこにみんなでかなえる夢があるのなら、ひとつの大きな成果だと思う。

**ふりかえりとか評価って、本当に難しいと思う。
実は、けっこう苦手だったりする。**

ふりかえりなんかをするミーティングの中で、良かったことに対して、それを「すごいね」「良かったよね」とほめたりほめられることは、まあそれほど難しくはない。

でも、あまりできの良くなかった事や成果に対して、それを評価するときのコメントを出したり出されたりする時って、けっこう気苦労が絶えないなあ、と思うのはぼくだけだろうか。

要するに、うまくいかなかったことに対して「ダメでしたね」とダメ出しをしたり、されるわけである。

もちろん、それは組織の中で行われている「評価」だから、今後を改善するために出されるものであって、決して本人そのものを否定するものではないのだけれど。

でも、どうしてもマイナスイメージのある言葉を使うだけに、分かってはいるけど、言うのも言われるのも、お互い心苦しい。特に、年下のぼくが年上の方に対して「ダメでしたね」的なことを言わなければならない時は、本当に苦しく、いつも逃げ出したくなる。また、逆にそういう言葉を投げかけられると、その通りだなと頭の中では納得している一方で、やはり心のどこかで「やっぱオレのせいでうまくいかなかったんだよな…」と自責の念に駆られ、けっこう落ち込むものである。

だから、いっそのこと「別にいいじゃん、ふりかえりなんてしなくて」と思ったりすることもあるが、でも、やっぱりそれは間違いだ。ふりかえりこそ、よりよいふおれすと鉱山をつくるためのスパイスなのだ。

そのスパイスは、自分自身や組織内だけでのふりかえりだけでは足りない。いまや「クレームをお客さんから買う」企業もある時代だ。そこまではいかないまでも、利用者から見たらどうだったのか、とか、専門家から見たらどうだったのか、という様々な視点から、良いことも悪いこともふおれすと鉱山をみてもらうことが、今のふおれすと鉱山の現状、そしてそこにいるスタッフの力量を浮かび上がらせるいちばん良い方法ではないかと思う。

そして、大切なのは、ふりかえりから抽出された課題を、みんなが「みんなの課題」として認識することと、いかにそれを生かした計画が立てられるかではないだろうか。「去年はここがダメだったね」と言われた担当者だけが頭を悩ませるのではなく、そう言った人も一緒になってよりよいものを作り上げていくような、みんなが同じ方向を向いてやっていけるようなふおれすと鉱山を、作っていければいいなあと思う。

さあ、どうしようかな。ふりかえりとか評価とか、実はけっこう夢が描けて面白いかも。

今年のふおれすと鉱山は、こんな感じでした。

① 新しい利用者が増えました。

今年から、「こうざんちょう もりのようちえん」に代表されるような、幼児やその保護者向けの自然体験プログラムや、活動の場を提供してきました。その結果、今まではなかなか見かけなかった、小さなお子さんを連れてご家族が、休日だけではなく平日にも顔を出すようになり、新たな利用が生まれました。最初は、子どもたちはともかく、お母さんたちはかなり遠慮がちだったのですが、今は子どもたち以上にお母さんたち自身が自然体験に興味を持つようになったり、お母さん同士が仲良くなったりと、あらたなブームが生まれつつあります。



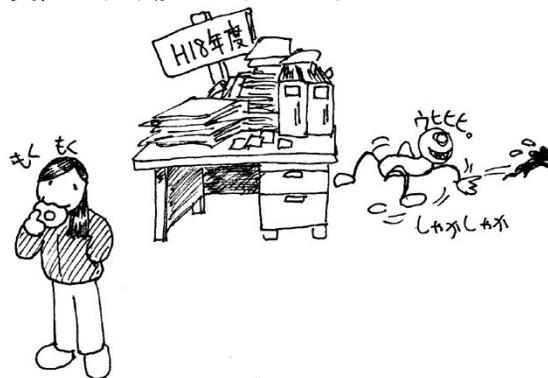
② NPO法人モモンガくらぶが誕生しました。



平成17年8月、ふおれすと鉱山を支援する「モモンガくらぶ」が、晴れてNPO法人格を取得し、社会的により堅実な組織として認められました。今まで以上に多様な自然体験プログラムの開催・提供はもちろん、利用者の思いや願いを聞く「利用者懇談会」を主催したり、ふおれすと鉱山の来年度の事業計画づくりにより積極的に関わりははじめました。

③ 次世代の運営計画作りは、来年度（平成18年度）に延期されました。

年度当初は、平成17年度中に、この先10年ぐらいを見越した運営計画を作成する予定を立てておりました。しかし、平成18年度もこれまでの運営体系で進められることになったため、運営計画作りは平成18年度中に実施することとなりました。そのため、開催予定だったシンポジウムも、延期されることになりました。



④ 来館者数が、微増しました。

平成17年度のふおれすと鉱山利用者のべ人数は、皆様のおかげを持ちまして、前年度16906人に比べ756人増の17662人（H18年2月現在）となりました。その一方、宿泊者数は思ったように伸びておらず、「日帰り利用者が多い」一年となりました。来年度以降、どのような形で宿泊者数を確保するか、その方法を考える必要があります。



オープンから46ヶ月目の活動報告

●ふおれすと鉱山の主催事業

コーザン・ながぐつレンジャー【子どものお仕事体験プログラム】 12/24、1/28、2/25

いつも大人顔負けの仕事をしてくれるながぐつレンジャー！リンク作りや雪かき、はたまた動物の足跡調査まで。大変なことも、楽しみながらお仕事している様子はスタッフにも刺激になります。次回も、大きな仕事がまっているんだ！頼りにしてるぞ！ながぐつレンジャー！

もりのようちえん【幼児の自然体験プログラム】 12/25、1/28・29、2/25・26

もう雪あそびの格好もしっかりできるようになりました。寒くて、苦手なはずの冬だけど、山の木の枝を使ってお正月の準備をしたり、雪を变身させて美味しいものを食べたり、“雪渡り”をして、山登りをしたり…。遊具はないけど、自然のものを自由に使って遊んでいます。そして、大人たちも遊んでいます！

雪中キャンプ【モモンガくらぶ注管】 1/14・15 2/18・19

雪中キャンプが行われた日には、かなり気温が下がりましたが、みんな寒い夜を乗り切ることができました。中学年は特別なところに、高学年は雪洞を掘って寝ました。今回はモモンガくらぶに音頭取りをしてもらったキャンプとなりました。

鉱山のんびり自然歩き【平日プログラム】 1/26、31、2/16、3/8

カンジキやネイチャースキーなどの道具を使って、冬ならではの楽しみも満喫し、のんびりと散策しました。今は雪があるおかげで、夏場では行けない所を歩くことができます。こんなステキな場所があったのかあ、センター近くにも楽しいところはいっぱいです。

ふおれすと鉱山冬まつり 2/5

ソリすべりにながぐつホッケー、歩くスキー、かんじきハイキング、ポニーのりポンちゃんの乗馬体験、雪上おしくらまんじゅうなど、一日でいろんな冬を楽しみました。幻のソリ大会、第2回山神社カップも開催されました。幼児からおじいちゃんまでが入り混じり、本当に賑やかな鉱山町の日でした。

がつつり植物めぐり【平日プログラム】 2/23、3/17

植物の楽しみ方はお花が咲いている時期だけじゃない！ということからはじまった平日プログラムは植物にフォーカスして行なわれました。ちょっとマニアックな内容もありますが、葉っぱが落ちている今だからこそ、じっくり向き合うと見えてくるものがありましたよ。



●ふおれすと鉱山の協働事業

ふおれすと鉱山スペシャルウィーク 1/13～15

突如ふおれすと鉱山に現れた「ティピー村」。そこではなにやら美味しいものや楽しいことが朝から晩まで行われたそう…。約420名の方々にお越しいただき、冬ならではの鉱山町ならではの自然の恵みでいるんな遊びや自由な時間を楽しんでいました。ボランティアのみなさんも作り上げることを楽しんだ3日間でした。

●モモンガくらぶの主催事業

歩くスキー 1/22、2/26、3/5、3/11

恒例行事となった、人気の歩くスキー。鉱山町の奥地に続く林道を、自分のペースで歩きます。初めての人も、慣れてる人も、それぞれのやり方で楽しみました。冬の森や川のフトコロに潜り込んで歩き続けた先でのゴハンはまだ格別です。

冬のハイキング 2/12

今はほとんど見かけなくなったカンジキですが、やっぱり便利です！フカフカ雪の上を、フワッフワッと歩いていくことができます！冬にしか観察することができない動物の足跡、野鳥、樹木ののんびりと見ることができました。

利用者会議 3/4

ふおれすと鉱山を利用しているの方々にお集まりいただき、ふおれすと鉱山がこーなったらいいなあ、というみなさんの意見や考えを伺いました。これら出されたものは、ふおれすと鉱山の来年度事業作成に活かすべく、これから話し合いがはじまります。

●受託プログラム・その他の活動（学校対応など）

1月 幼児サークル、青葉小1年、登別小4年、スペシャルウィーク2005実行委員会

2月 幼児サークル、市内子育て支援サークル、NPO法人子どもコムステーション石狩、鷺別小5年、青葉小2年、青葉小3年、森づくり勉強会、鉱山流里山づくりマスタープラン作成委員会（全3回）

100年後の鉱山の森の姿を思い描こう！

～ふおれすと鉱山流里山づくりマスタープラン作成委員会開催～

2月4日午後、ふおれすと鉱山、鉱山の森に縁のある方々にお集まりいただき、とある委員会が開催されました。集まっていたのは、NPO法人モモンガくらぶをはじめ、ふおれすと鉱山の利用者として、地元の自然活動団体・学校団体の代表の方に加え、北海道の森を知り尽くしている有識者、森林インストラクター、国有林を管理する森林官の方などの10名のみなさん。

その委員会は「ふおれすと鉱山流里山づくりマスタープラン作成委員会」と称され、100年後の鉱山の森の姿について、熱き話し合いが行なわれたのでした。その後も3回の話し合いが開かれ、ふおれすと鉱山周辺の森（現在遊歩道が整備されている周辺です）は、「人が手入れをし続ける森、木を伐って育てていく森、里山的な森。いわば、入門編の森として活用していくこと」を目指すこと、また、ふおれすと鉱山周辺から広がっていく鉱山地区の森とのつながりとそのつきあい方については、「現存の森を楽しみ、実現可能なことをしていく森。いわば、達人編の森として活用していくこと」を目指していくという大きな方向性が決まりました。

来年度からの里山づくり事業はこの委員会での意見を反映して進められます。例えば、市民の憩いの場としたり、山仕事を楽しんだり、森の動物に会える機会をつくったり。また近日、ふおれすと鉱山周辺の森の名称も募集していきます。今後の里山づくり事業もご注目ください！



遠藤 (Civic Coordinator)

ほんねのスタッフ

⑫ ネイチャーダイエツト

今年はとにかく雪が多いので、ここへ遊びに来る子どもたちは、そりゃもう大喜び!!しかし、私の心はちょっと複雑?もちろん雪遊びは楽しいのだけど…。その要因は、早朝から始まるハードな除雪。とにかくその範囲がめちゃくちゃ広い。表玄関に裏玄関、駐車場、さらにグラウンドにある「雪の迷路」と「つるつるリンク」の除雪・じよせつ・ジョセツ・Josetu…。雪の多い日は、午前中では終わらない時さえありました。そこで、せっかく除雪をするなら「楽しんでやっちゃおうよ」と発案されたのが、「ネイチャーダイエツト!」もちろん高価なマシンや薬は必要ありません。この鉱山町の自然がつくり出す「おいしい空気」をおもいきり吸い込み、呼吸を整えながら、ただひたすら「スコップ」を使って雪をかくだけでOK!!えっ!たったのそれだけ?いやいや、これがけっこう効くんです。この冬、僕はコッソリ4キロも痩せちゃいました。

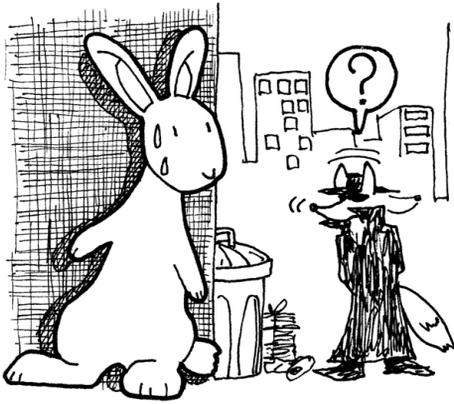
しかし、スタッフの仲間には、いまだ気付いてもらえない寂しさをちょっとだけ感じているのも…ほんねです。(K)





に感動!

④ アニマルトラッキング



最近僕は、動物たちの足跡を追う「アニマル・トラッキング」に魅せられている。この冬、キツネ・タヌキ・イタチ・テン・イズナ・ネズミ・シカ・ネコ・イヌ・ウマ・エゾリス・ウサギなどの動物の足跡に出会えた。さらにその足跡からその動物の人間ドラマ? (いや動物ドラマ) を想像できるのもおもしろい。

ある日、野ウサギの足跡を見つけた。このウサギの足跡の追っていくと、途中から平行してキツネの足跡が現れた。「あっ!」緊張感がはした。キツネがウサギの足跡を頼りに、獲物を探しているシーンを想像した。さらに追いかけていくと、ウサギの足跡は途中から、四方八方にたくさん散らばっている。わざわざ自分の足跡を踏み直して方向転換するのは実に見事だ。外敵から身を守るウサギの「かくらん作戦」にキツネだけでなく、僕も見事にはめられてしまった。そんなウサギの文化に触れられた瞬間がたまらなく嬉しい。(菊池)

ゆきのおふとん

~積雪のひみつ~

えんどうめぐみの 森のひみつシリーズ①⑥

ここ鉱山町でも、冬の間、ほとんどの植物たちは、雪の中にいます。種のかたちだったり、地面に這う葉の状態(ロゼットといいます)だったり、球根のかたちだったり。この雪のなかにいる植物たちは、冬の間、冷たい雪のなかで凍えているのでしょうか。

実は、積雪は、植物に対して、重要な役割を担っているのです。冬の氷点下の気温で植物は中の水分が凍ってしまうことがあります。また、環境の厳しいところでは、冬に発生する強風などが植物を乾燥させ、ダメージを与えます。葉っぱをつけた樹木のなかには、雪から顔を出している部分がそれらのダメージで枯れてしまうこともあるのです。その代表例が亜高山帯のハイマツです。冬の間枝葉を傷つけないように積雪の高さ以上には育たず(育てず)、地面を這うように生きています。そして、冬期には、密に生えている葉っぱや枝で雪を捕らえていちはやく雪の下に埋まるのだそうです。

雪の中は、外気温がどんなに下がっても0℃を下回らず植物を守ります。植物たちは、実は“ゆきのおふとん”の中で快適に冬をすごしているのでしょう。

また、なかには、冬を経験しないと芽を出すことができないものもあります。冬というと寒くって、つらくって、動物にも植物にもたいへんな季節なのですが、ちゃんとなくてはならない季節なのです。ゆきのおふとんから、フクジュソウやエゾエンゴサクなどの早春植物が顔を出すのも、もうじき。ゴジュウカラやシジュウカラたちのさえずりを聞きながら、雪解けを感じ、春を待つ今日この頃です。



リレーエッセイ Roots and Shoots リトル・ヴォイス

ふおれすと鉱山を楽しむ教師に

渡辺 信保

自分にとってふおれすと鉱山とは…。

時の流れる速さが半分になり、
ゆったりと子どもに接することのできる場所。
自分も子どもにかえて、
子ども達と一緒に、無邪気に、夢中になれる場所。
自然について、子どもの接し方について、
あらためて学ぶことのできる場所。

担任外ながら授業の引率として、総合的な学習や生活科、理科などでふおれすと鉱山を利用させて頂くようになって4年。あらためてふおれすと鉱山での授業を振り返り、率直に感じたことです。

「早くしなさい。時間がないよ」ふだん小学校で私たちは当たり前のようにこのような言葉を子どもに投げかけ、あわただしく授業を進めていくことが多いのです。そして教師自身もとかく余裕のない時間を過ごしているような気がします。

ふおれすと鉱山でも当然活動プログラムがあり、それにしがって進めていくわけですが、子どもみんながじっくりと自然に親しむという基本スタンス、そのゆったり感自体が「ふおれすと流」授業の特色なんだなあと感じます。

今年の冬に経験した3年生の「雪について」の授業の中でのかまくら作り。やや固くなり掘りづらい雪山を子どもと一緒にひたすら掘り進めていく自分。そこには教師ではなくただの子ども時代に戻って夢中になっている自分がいます。出来上がったときには「やったぞ！」と大はしゃぎしながら子どもと一緒に喜び自分がいます。そこには自然な形で子どもとの連帯感があります。こんな感じで、童心にかえった先生方もきっと多いと思います。

学校とはちょっと違った子ども達の生き生きとした表情、スタッフとのやり取り、「楽しかった、おもしろかった」との感想に、4年前はちょっと嫉妬のような気持ちを感じたことを思い出します。しかし、スタッフの温かさ、活動の中の随所に見られる「ふおれすと流」の工夫、そして子どもへの接し方に、我々教師も学ぶことの多さを感じるとともに、次第にふおれすとの魅力にはまっていきました。

子ども達が健やかに暮らせる環境づくりという点で学校教育との連携は今後さらに重要視されていくと思います。そうした中、まずは教師自身が、「ふおれすと鉱山流」にはまり、楽しむことが第一歩かもしれません。



1964年室蘭生まれ。

教職20年目に突入。青葉小での勤務も10年目に入りました。教務係を担当。各学年のお手伝いとして、校外学習や体験学習の引率補助をしています。

自然については全然詳しくありませんが、バード・ウォッチングが好きです！

EVENT INFORMATION

イベントチェック

ふおれすと鉱山の事業

- | | |
|----------|-------------|
| 4/21 (金) | のんびり鉱山の自然歩き |
| 5/21 (日) | 鉱山町フラワーソン |

モモンガくらぶの事業

- | | |
|------------------|----------------|
| 4/9 (日) | 早春の植物観察会 |
| 4/23 (日) | ワンディハイク |
| 5/13 (土) ~14 (日) | KoNG養成講座～概論編～ |
| 5/20 (土) | 山登り実践教室 (机上講座) |
| 5/28 (日) | 春の登山会 |
| 6/4 (日) | 沢登り実践教室 (机上講座) |

今年も開催します！ もりのようちえん

自然の中でめいっばい遊びます。
5/27 (土)、28日 (日)
6/24 (土)、25 (日)
7/22 (土)、23 (日)
詳細の募集は後日、乞うご期待！

今年も開催します！ ながぐつレンジャー

ネイチャーセンターのお仕事体験。
5/27 (土)、6/24 (土)
7/22 (土)
詳細の募集は後日、乞うご期待！

CHECK IT!!

ゴールデンウィーク スペシャルウィーク

毎年恒例となったスペシャルウィークですが、小さいお子さんから大人まで、さまざまな人が、自然と触れ合える機会や体験をご用意しています。
軽めのものから、マニアックなものまで、お楽しみ企画がありますよ！

5/3(水)～5/7(日)

今年は、5日間のロングラン。
動き出した春を思いっきり満喫しちゃおう！
定番となった春の野点、草木染め、
魚拓教室のほかにも、春ならではの体験企画
をいっぱいをご用意しています！！

ボランティアスタッフ 同時募集中！！

お問い合わせ：ふおれすと鉱山まで

鉱山流里山づくりプロジェクト今年度の予定

- 昨年から本格的に始まった里山づくりの動き。100年の森、マスタープランも完成しました。
ふおれすと鉱山の里山づくりで…
いい汗をいっぱいかいたしましょ
う！今年は、イベント満載です。
一緒に、100年後の森をつくりあげ
ませんか？ お問い合わせ先 (担当：遠藤)
- | | | |
|-----|------------|--------------|
| 第1回 | 4月29日 (土) | 山取苗の掘出し (予定) |
| 第2回 | 5月13日 (土) | 植栽 |
| 第3回 | 6月10日 (土) | 移植 |
| 第4回 | 7月8日 (土) | 草刈 |
| 第5回 | 9月16日 (土) | 種集め |
| 第6回 | 11月18日 (土) | 苗準備 |
| 第7回 | 2月17日 (土) | 枝打ち |

HOT NEWS

昨年から少しずつ、平日の日中に大人向けのプログラムが開催されています。今年は、散策のほかに、いろんなテーマに挑戦したいと思います。(Y)



ふおれすと鉱山ご利用のご案内

開館・9:00～17:30 入館料・無料
休館日・毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合はその翌日が休館となります)
・工作室・図書室はご自由に使用いただけます。そのほかに双眼鏡、マウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。

EDITOR'S LOUNGE

あっという間に過ぎ去って、あっという間にまた次が始まる。気がつけば、年度の変り目はいつもそんな感じだ。外に目を向けると、今年はこの鉱山町の芽だし、どうやら若干遅いようだ。あわてているのは人間だけなのかもしれない。回りの環境に合わせてじっくりと着実に生きていく姿が自然界にはいつもあるなあ。

おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 Vol.16
発行：2006年3月
発行所：〒059-0021 北海道登別市鉱山町8-3
電話番号：0143-85-2569 FAX: 0143-81-5808
E-Mail: kouzan@pluto.plala.or.jp
URL: <http://www.noboribetsu.ed.jp/~ncenter/>